# 北陸石仏の会々報

第7号
平成6年8月5日発行

編集発行　北陸石仏の会（日本石仏協会北陸支部）
代表　藤村善雄
〒939-13　富山県砺波市太田一七七〇　尾田武雄方
電話　〇七六三－三二－二七七二
振替　〇〇七四〇－二－一一九七四

北陸石仏の会　第7回例会　打保光明寺前

## 宮川村杉原　久雲山玄昌寺薬師堂の石仏

平井一雄

### 一　摩訶迦羅大黒女　写真①

六月五日の宮川村例会で杉原玄昌寺境内薬師堂内石仏に盤持ちのスタイルをした不思議な小石像があったのをご覧になったでしょうか。お寺さんの前のミーティングで私は参加の皆さんに頭に蛇身のある辨財天（水天）の他にこのなぞの石造物のことを紹介しました。

私は平成五年二月二十五日の飛騨民俗学会宮川村聞き取り調査の休憩時間中に一人で杉原神社や不動堂、玄昌寺を散策していてこの石像を初めて見ました。その後、平成五年八月一日に金沢の会員、滝本靖士さんと庚申塔探訪のときあらためて写真を撮ってきて、いろんな石仏の本を調べたのですがわからなかったのです。北陸石仏の会例会のあと尾田武雄事務局担当からこの会報原稿を依頼されて、あらためて水天や辨財天のことを調べようと『新編佛像圖鑑』（国書刊行会）を眺めていたら図1のような図像が目にとまりました。

摩訶迦羅大黒女（まかからだいこくにょ）と書いてあります。説明は単純

写真①

図1
ヨニクコイダラカカマ
女黒大羅迦訶摩（94）

に「摩訶迦羅大黒女は大黒の后にして、頭上に米俵を戴きたる姿なり」とあります。あらためて写真を見ると頭上の盤持ち石状の物は米俵であり、顔は福々しいおかみさんで袂（たもと）も表現されています。私はこれに違いないと思いました。皆さんはどう思われますか。

大黒様は米俵を踏みこんでたっておられますが大黒女は米俵を差し上げ大地にたっておられます。まさに大地母神の姿を現しておられるようです。このような石仏は石仏関係の本では今まで私は見たことがありません。

国語辞典を見ますと大黒の項に［大黒天の略］・［僧の妻の俗称］とあります。

とすると大黒女はお坊さんの奥さんの奥さんになりますね。

## 二　辨財天

杉原地区を含む旧坂下村は安政五年二月二十六日の大地震および大正三年八月十三日の大水害により壊滅的な被害を受けています。

薬師堂内の辨財天はこのときの被害者の供養や再び災難の起こらないように祀られた石仏ではないでしょうか。

玄昌寺境内の薬師堂は昭和五十六年発行の「宮川村誌通史編上」によると「・・・中に薬師如来・不動明王・延命地蔵・准胝観音の四体を祀っている。なお近く不動明王を二体併せ祀ることになっている。」と書いてあります。その後十数年のあいだに三体増え現在七体を数えることができます。写真②

右端の頭上にリアルな蛇を描く彩色された石仏は前に置かれた木札に辨財天および［おんそらそばていあいそばか］と書かれていることから辨財天として祀られているものだろうと思います。

一般に辨財天は弁才天とも書かれ琵琶を持ったいわゆる弁天様を思い起こします。インドのヒンヅウー教の神様を描いた宗教画を見ますとサラスヴァテイという神様は腕にヴイーナという楽器をかかえ背後に川が流れています。この神様が日本に入り学問と技芸の神となり日本の古い富の神である宇賀神と習合して財の字があてられ蓄財の女神ともなりました。

シバ神は首に数珠と蛇を巻き付けた姿に描かれます。シバという言葉には、「吉祥」という意味があり「リグ・ヴエーダ」では暴

風雨神マルト神群の父ルドラの別称とされています。ルドラは豪雨、大風、雷電によって家を破壊し、人間や家畜を殺す恐ろしい神ですが、反面、病いをいやす治癒神としての性格も持っています。この神は台風が神格化されたもので、恐るべき災禍をもたらすと同時に雨を降らせて植物を育てる生命の源であるという二面性をそのまま現していると考えられています。

写真②

杉原の辨財天はこのシバ神を石像化したように私は思っています。佛像圖鑑で頭上に蛇（龍）をあらわした仏像をさがすと「水天」が出てきます。

説明は［水天は梵名をボロダ（VARUNA）といい、水天と訳す、即ち諸龍王の主にして、水に自由自在の力を有するが故に水天と名ずく、大日経には「ボロダ龍王此れは是れ大海中の龍なり」とあり、また十二天報恩経には「水天喜ぶ時は二の利益あり、一は人身渇せず、二は雨澤時に順う。此の天怒る時はまた二の損あり、一には人身渇し、二には器界旱魃万物乾き尽くす」と。よって古来請雨の時は此の天を本尊として修法を行い、その功徳を獲るなり。・・・此の天の形像は「・・・西方の水天は水中に住して亀に乗り、浅緑色なり、右の手に刀を執り、左手に龍索を持つ頭冠の上に五龍あり・・・」とあり種々異形を示す。］とありました。

辨財天も水天も水難除けの水神であり招福の神様でもあるのでしょう。

宮川村ではいろんな事情で村を去る家があり過疎化が進んでいるようです。

この薬師堂内の石仏もそんな家々の屋敷神が集まってきて数が増えてきたのでしょうか。

神通川流域ではこの水天石像はこの杉原の二体の他に、神岡町牧に一体、大沢野町芦生に三体、大山町石淵に二体、常願寺川下流の富山市流杉に一体、長棟川上流の廃村長棟村に一体祀られています。いずれも水難除け、雨請いの願いをこめて祀られたものでしょう。

琵琶を持つ弁才天石像は大沢野町直坂不吹堂（ふかんどう　風の神様）前・大沢野町芦生　民家の池、頭上に鳥居を戴く辨財天は神岡町吉ケ原・神岡町玉姫にあります。

文字碑では大沢野町塩に［水神宮］・大沢野町猪谷に［水天明王］・同猪谷に［辨財天］・神岡町白山に［水神］があります。

また「ガメ宮」といい瓢箪を持った水神様と「ガメの堂」といい羅漢像を祀った場所がかつて神通川の水運が盛んであったころの川船の難所の近くにあります。

ガメとは私の子供の頃（大沢野町中大久保）川遊びをしているときにおとなや先輩たちが危険な場所を教えるのにいった言葉でしょうか、流れが渦を巻いているところはガメといって肛門を食べて水に引きずり込む亀の化け物がいるといっていたことを覚えています。

佐伯安一著の「砺波民俗語彙」では「ガメ　亀。一方では河童に仮託され水中で人間の肛門を抜くという。ガメは胡瓜が好きだから、生胡瓜を食べて川へ入ると肛を抜かれる」と書いてあります。漆間元三氏の「習俗富山歳時記」ではガメ祭として大沢野町のガメ宮の祭を紹介しておられます。

柳田国男監修の「民俗学辞典」には河童の項に「ガメ（亀）などは実現動物に仮託した語である」と書いてあります。

中山太郎著の「日本民俗学辞典」には水神としてのガメは出てこないようです。河童やがらつぱという全国共通の妖怪に水神としての性格が集約されたのでしょうか。

# 北陸石仏の会　第七回例会記録

**石棒への道は、庚申街道**

石棒を訪ねての雀躍した態度での初参加。一巡し、満足しての帰途、数河高原で入手した古川の地酒「白真弓」のカップを、バスの中で飲み終わったところ、幹事の平井氏、〃中川さん、今日の感想を書いて…〃との発言。一遍に酔いがさめ、家では鉛筆ナメナメ書くはめに…。

37人を乗せたバス2台、富山発は9時10分。猪谷からは宮川沿い、飛騨西街道（国道360）を行く。西加賀沢で富山県にしばし別れを告げ杉原に着いたのが10時40分頃。予定を早や小一時間も遅れている。少し高台にある玄昌寺（曹洞宗）で皆顔がそろったので、会長さんが挨拶。先ず小堂にある石仏拝見から。弁財天の頭の上に蛇がとか。普通は鳥居（とりい）とかビワとかのようだが素人の小生にはわからない。さらに上の方、墓地の所にある小堂内の石仏を。ここの中では馬の形をした石仏が異色。専門家A氏は愛宕神社に関係がある将軍地蔵といい、B氏は馬上太子像という。この2つ、素人には同じなのか違うのかわからない。（註・馬上太子とガイドにあるのは誤りで、勝軍地蔵とのこと。）ここはかなり高台で、前からのスキー場のほかに、新設のマンガ王国、おんりー湯がある。〃おんりー〃とはどういう意味なのか、これは専門家でもわかるまい。もうすぐJR打保駅という所を左折、川を渡って少し上ると、今回のメイン、塩屋金清神社の前に着く。

近くにある立派な鉄筋の建物「郷土文化伝習館」は国の指定民俗文化財になっているだけあり、内容が実に豊富。ここだけでも多くの時間が必要である。小生の関心は、えんの下特別展の土器、地図のところであった。〃雀躍〃の石棒を少しでも早くと思い、急いで下へ行く。館長さんが〃そんなに急がれなくても〃と言われたときは、顔が少し赤くなる。さてはご対面！　お見事、今の流行の「村おこし」で、平成3年につくられたという男女各々のシンボルは、近くの万波産のトチの巨木からのもの。男性

のは長さ4.6m、直径1.8m、重さ6トン。女性のはその各々が3m、1.5m、4トン。女性の方は自然のままで何とか一般公開はパスだが、男のは展示すれば「わいせつ物陳列罪」に該当するとか。世の中、中々むつかしいもんですナ。

そもそもここの山には、溶岩凝灰岩があり、お宮のご神体が男性のシンボル。子宝、安産、霊験あらたかなお宮として、昔からよく知られている。近くの洞付にあったワラ屋根の旧中村家で昼食。そのとき話された小島氏（埋蔵文化財担当）の言では〝…石棒は、未完成品を含めると約900本あり、飛騨、北陸へ、物々交換のため動いていた。ここには石棒の製作所があり製品は北の方では富山県魚津の天神山へ、南の方へは、高山の先、朝日村からひょっとすると信州の方迄いっていたのでは…〟とのこと。ところで、この社の名称が金清神社。普通は金精なのに、何故ここのは〝金清〟なのか。そもそも〝金清〟という言語はあるのだろうか。

午後は1時に、2号車は地元の野村氏のリードで出発。すぐ光明寺（曹洞宗）に。入口左の小堂の中に沢山石仏がある。六地蔵が前と後に。後列の左方に庚申、薬師そして石がんが。会員達（素人の）が主に薬師らしき石仏について、手に薬壺を持っていないので？　けんけんがく〜。そこへ御大の京田副会長が見えたのでここの石仏について聞く。氏は、すぐご愛用の小電灯を先ず六地蔵に照らし、〝ほうえい〟とか、〝かんぽ〟とか言っておられる。素人の小生、安保か簡保か、一泊したいナと思う始末。京田氏続いての発言〝かんぽ〟を誰かメモしておいて下さいよ！と。誰がメモしているのかナ？（註・かんぽう＝寛保）氏はさらに流ちょうに続ける。石かんの上に日月があり、中に庚申があったかも…と。かんじんの薬師決定については聞きそびれてしまった。

打保駅と坂上駅の間（JR）には、橋がありトンネルありの自然が厳しいところ。電車好きの小生、撮影にここを何回も訪れている。釣り人もよく来るところ。人それぞれだナと思いつつ、廃村大瀬の路傍にある石仏を拝見することに。ここの庚申は日月の位置が普通のに比し逆になっている。これが大変珍しいのかどうか、小生にはわからない。小さな石棒が数本あるが、先端の見事なのがなくなっている。

次は牧戸の地蔵堂拝見。小さいがつくりが中々立派。中には庚申を中心に六地蔵がある。横の方に穴のあいた石が二、三ある。耳の悪い人用のであろう。最後は、公民館内にある石仏の中心は明和の年号のある秋葉さん。地元の道下、野道両氏に色々聞く。ここは秋葉神社の聖地のため、五輪塔の一部のような円い石がいくつもころがっている。平井氏を中心に、その一つを取り上げ〝普通ばんという字は一つしか書かれてないのに、これには四つもあり…〟？　ここで京田氏に登場願っての答えは〝バンの四転とか〟というもの。平井氏らは〝成程〟と納得。小生には、全くわからないことだった。

かくして、坂上銀座、林にある泉洞寺（曹洞宗）に少し寄り、役場前に着いたのが2時45分。あたふたと41経由で富山へ急ぎ、着いたのが4時55分と大分遅れたことになる。顧みて、石棒を求めての道は、庚申の道であり、秋葉さま、お鍬さまへの道でもあった。

中川　達

## 第七回北陸石仏の会例会出席者

**富山県**

小竹一夫　大野猪策　加藤永子　京田良志
京田悦子　京田千鳥　柳沢栄司　吉沢田鶴子
猪谷春恵　中川　達　細野恭孝　大浦美子
太田幸子　富田　幸　野上英子　牧野きよい
島倉千春　島倉　巌　西村多恵子　江尻和子
真野外喜夫　南　金三　林　貞子　平井一雄

**石川県**

滝本靖士　南藤文子　彦坂貞次　藤村善雄
藤村外美子　亀田静子　白田博以　山崎顕章
山崎やすえ　南外志雄　長原忠夫　長原聡子

**福井県**

大久保まさ子　北野正明

## 北陸石仏の会新会員

猪谷春恵　白田博以

尾田ギャラリー（砺波市太田）で藤村善雄会長の「石仏写真展」8月下旬まで開催中!!

## 北陸石仏の会第八回例会案内

**月　日**：平成六年九月十八日（日）雨天決行

**時　間**：集合、午前九時四十分　JR福井駅（裏）東口に解散、午後四時

JR福井駅東口で

**乗　物**：京福観光バス大型一台（人員五十名予定）

**参加費**：五、〇〇〇円（バス代、弁当代）

**日　程**：一乗谷・朝倉氏遺跡の石仏めぐり

**参加連絡**：九月二日（金）までに

事務局（〒939―13　富山県砺波市太田一七七〇、尾田武雄方　北陸石仏の会）へお願いいたします。

| | | | |
|---|---|---|---|
| スーパー雷鳥 | 富山 8:15 | 金沢 8:53 | 福井 9:39 |
| 雷鳥11号 | | 敦賀 9:03 | 福井 9:38 |
| 雷鳥39号 | 福井 16:37 | 金沢 17:30 | 富山 18:16 |
| 白鳥 | 福井 16:37 | 敦賀 17:11 | |

### 朝倉氏遺跡　石仏、石塔めぐりメモ

1、荒木新保町、岡　西光寺（無住寺）　大形、小形の石仏群、一石五輪塔など
2、東郷小安町、三社神社前の堂内に大形、小形の石仏群
3、安波賀、西山光照寺跡　石仏群
4、朝倉氏遺跡資料館
5、朝倉氏遺跡公園センター　無料休憩所
6、道福谷、八地谷　山頂や山裾に石仏散在だが夏草繁り見付けにくい
7、朝倉氏館跡、正面唐門　館跡内に朝倉義景墓所
8、朝倉孝景墓所（英林塚）　館跡より東南の坂を登る
9、盛源寺坂、石仏群
10、西新町と鹿俟境　山裾に三棟の堂内に石仏群
11、東新町、西田家　昭和四十年頃、自家畑耕作中に掘り出された、石仏、中国製酒器、陶器、ヒバコ等、石仏、ヒバコに金箔、うるし、朱、群青の彩色が残ってる。
12、東新町　山裾に大型石仏、一石五輪塔群